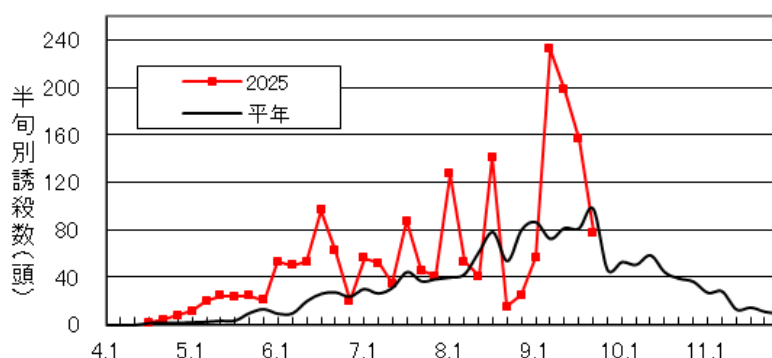


令和7年度病害虫発生調査速報第2号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和7年度 病害虫発生調査速報 第2号

1. 病害虫名： シロイチモジヨトウ
2. 対象作物： 野菜・花き類（ネギ、レタス、ブロッコリー、アスパラガス、パセリ、キクなど）
3. 発生が予想される地域： 県下全域
4. 調査結果の概要
 - 1) 綾歌郡綾川町のシロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける9月第1半旬から9月第5半旬までの合計誘殺数は、721.3頭（平年 421.3頭）で、平年に比べて多かった（第1図）。
 - 2) 病害虫防除所が調査しているブロッコリー、ネギの巡回調査圃場において、シロイチモジヨトウが多発生している圃場が認められた。



第1図 シロイチモジヨトウのフェロモン
トラップ誘殺数の推移（綾歌郡綾川町）

5. 防除実施上の留意点
 - 1) 若齢幼虫は集団で食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や幼虫集団は見つけしだい捕殺する。
 - 2) 中老齢幼虫には薬剤の効果が劣ったり、ネギ等では食害して葉の内部に潜り込むと防除効果が低下するので、圃場をよく見回り若齢期に薬剤防除を行う。

- 3) 圃場内及び圃場周辺の雑草は増殖源になるので、除草に努める。
- 4) ハウスの場合は開口部を防虫ネット（4mm目合以下）で被覆し、シロイチモジヨトウ成虫の侵入を防止する。
- 5) 薬剤については病害虫防除所発表の薬剤感受性検定結果を参考に選定する。具体的にはベリマークSCやヨーバルフロアブル等の育苗期後半～定植当日灌注処理剤やディアナSC、アニキ乳剤、グレーシア乳剤、ブロフレアSC等の散布剤を使用して発生初期からの防除を徹底する。

参考〔病害虫防除所発表の防除に関する情報〕

(<https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojou/byogaichu/boujo.html>)

- 6) ハスモンヨトウやオオタバコガ等の害虫が混発している場合は、共通して効果のある薬剤を選択する。
- 7) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤の連用は避ける。
- 8) 作物によって、登録のある薬剤が異なるので、使用にあたってはラベルをよく読んで、登録の有無や収穫前日数、使用回数等使用基準を遵守する。



写真1 シロイチモジヨトウ卵塊（長さ：約1cm）



写真2 葉身内を加害されたネギ



写真3 ネギ葉身を加害する老齢幼虫（体長：約3cm）

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojou/index.html>

